

「脱腸かな？」と思ったら

美濃病院で受ける腹腔鏡下手術

重いものを持ったとき、咳をしたとき、立ち上がったとき、太ももの付け根が膨らんだことはありませんか？

もしかすると、それは「脱腸」かもしれません。

「脱腸」は「鼠径（そけい）ヘルニア」という病気で、男性の場合、3人に1人が経験する良性の病気です。しかし、放っておくと大手術となることもあり、適切な治療が必要です。



原因

お腹の中の臓器は腹膜という膜に包まれています。男性の場合、生まれる前にはお腹の中にあつた睾丸が鼠径部（太ももや足のつけね）にあるトンネルを通して体の外に出てきます。睾丸が体の外に出るとトンネルは閉鎖し、成長とともに筋肉でふたをされます。女性の場合は子宮を固定する靭帯（じんたい）がトンネルを通ります。幼児や小児の鼠径ヘルニアは、このトンネルが閉じきらないことが原因で起こります。

一方、成人の鼠径ヘルニアは年齢とともにトンネルの周りの筋肉が弱くなり、立ち仕事・妊娠・咳・メタボ・便秘などでお腹に力がかかりふたが緩むことによって、再びトンネルが開いてしまうことが主な原因です。その他にも腹部には筋肉が緩みやすい部分は何ヶ所もあり、そのゆるみが原因で腸が飛び出してくることもあります。

鼠径ヘルニアは命にかかわることもあります！

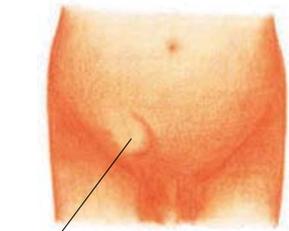
症状

初期は、立った時やお腹に力を入れた時に鼠径部の皮膚の下に腹膜や腸の一部などが出てきて柔らかい腫れができ、指で押さえると引っ込みます。その際、多くの方は下腹部の不快感や痛みを感じますが、個人差があり、まったく痛みを感じない方もいます。

放っておくと緩みでできた穴は次第に大きくなり、腸と一緒に飛び出すようになってしまいます。運悪く腸が穴にはまり込んでしまうと腸に穴があき強い痛みを感じます。その時は緊急手術が必要となり、命にかかわることもあります。

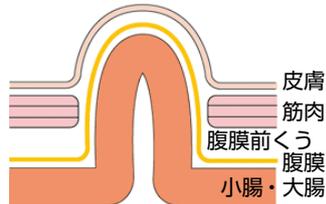
鼠径ヘルニア図解

● 鼠径ヘルニアの位置

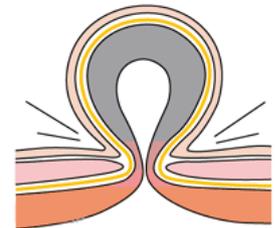


鼠径ヘルニア

● 鼠径ヘルニアの病態



● カントンになった鼠径ヘルニア



鼠径ヘルニアになりやすい人はこんな人!? ご注意ください!

- 40代以上の男性(80%以上が男性)
- 製造業や立ち仕事に従事する人
- 便秘症の人
- 肥満の人
- 前立腺肥大の人
- 咳をよくする人
- 妊婦



新しい手術方法が
選べるようになりました!

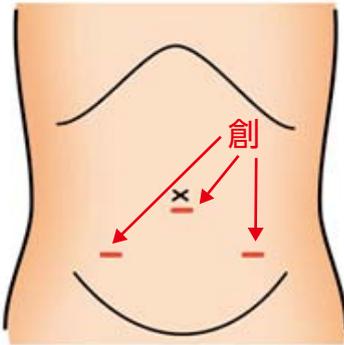
治療

一度、鼠径ヘルニアになると自然に治ることも薬で治ることもありません。腸が穴にはまり込まないうちに手術で治すしかありません。脱腸帯(ヘルニアバンド)と呼ばれるベルトで外から押さえつける方法は効果

腹腔鏡下手術の利点

- キズが小さく痛みが少ない
- 入院期間を短くできる
- 日常生活に早く戻れる
- お腹の中を直接観察しながら手術を行うので、症状が出ていない小さなヘルニアの見落としが少ない
- 再発ヘルニアの治療に適している
- 左右の2ヶ所のヘルニアを同時に治療できる

に乏しくトラブルの原因となるため現在は推奨されていません。
症状が軽いうちに手術を受ければ、お腹を大きく開いたり腸を切ったりすることはなく短期間の入院ですみます。手術後の痛みが少なく、再発率も低くできるメッシュ(人工繊維の網)を使った筋肉補強術が一般的です。



創のイメージ

まずは診察を!

「脱腸かな?」と思った時は、ためらわれないで、お気軽にかかりつけ医または美濃病院外科にご相談下さい。一人ひとりの患者さんの状態に応じて最適な治療法を提案させていただきます。

美濃病院では10年以上前から先進的に胃がん・大腸がんなどの腹腔鏡下手術を多く行ってきました。
今では美濃市外から腹腔鏡下手術を受けに来られる患者様が増えており、安心して腹腔鏡下手術を受けていただける環境が整っています。

美濃病院では、数センチの皮膚切開創からメッシュを当てる「ダイレクトクローゲル法」という根治性の高い手術法を主に行っており、今年から内視鏡を使用してお腹の中からメッシュを当てる「腹腔鏡下手術・TAPP(タップ)法」を新たに選択肢に加えました。この方法ではキズがさらに小さくなるため、退院直後から運動ができます。
仕事に早く復帰したい方、ゴルフやジョギングなどの運動をされる方には特に向いている手術法です。

美濃病院からのお願い

当院外来棟および健診棟の増築工事が始まりました。工事中は、患者の皆さまをはじめご家族の方々、市民の皆さまにご迷惑をおかけすることになりますが、よろしくお願いいたします。



美濃病院外科外来

診察時間

月・水・木・金曜日
午前9時から正午
(受付は午前8時から)
※予約なしで受診できます



わたしたちが執刀します